

■南条文雄 学僧，仏教学者。サンスクリット原典による仏教学を開拓，「大明三蔵聖教目録」に欧米学者も瞠目した。

なんじょうぶんゆう  
北斎没・・・1849＝

大垣藩の真宗大谷派誓運寺に生まれる。

ペリー来航・1853＝4歳：

五ヶ国条約・1858＝9歳：

桜田門外変・1860＝11歳：

薩長同盟・・・1866＝17歳：大垣藩の僧兵〔紹隆兵〕の一員となる。

大政奉還・・・1867＝18歳：

明治維新・・・1868＝19歳：維新で解散となり，京都大谷派本願寺の高倉寮に入ったが，  
版籍奉還・・・1869＝20歳：帰郷。

廃藩置県・・・1871＝22歳：越前南条郡金粕村の憶念寺住職で真宗大谷派でも名高い碩学であった神興の養子となり，  
学問のすすめ1872＝23歳：法令によって南条を姓とした。京都の本山に出，得度して文雄となるとともに，越中城端から来た笠原研  
寿と親友になり，切磋琢磨，

明治6年政変 1873＝24歳：

三つの内乱・1876＝27歳：欧州の図書館でサンスクリット語で書かれた仏典を見て虜となった東本願寺の現如法主の命で，  
笠原とともに選ばれて，イギリスへ留学。

予め指示されていたことから，パリ語の大家リス＝デヴィッツに勧められるも断って，  
ウェストミンスター寺院のスタンレー僧正と駐英日本公使の紹介状をもって，

琉球処分・・・1879＝30歳：笠原とともに，オックスフォード大学のマックス＝ミュラーを訪ねるや，肝胆相照らす師弟となり，その  
もとで梵語の修得を開始，笠原とサンスクリット語の「無量寿経」の書写を完成させるまでになり，

明治14年政変1881＝32歳：ミュラーが叢書第一部「金剛般若波羅蜜経梵本」出版に協力。笠原と，ロンドンのインド関係図書館所蔵  
の經典を閲覧しに行った際，西欧に大蔵経が伝わっているに目録が不備なため活用されていないことを痛感  
，さらに，パリに行く機会を得，国立図書館から「翻訳名義集」ほかを借り出して書写などするうち，

新体詩抄・・・1882＝33歳：第二部の「大無量寿経梵本」を出版するのにも協力。頑固に研究する笠原の結核が悪化，精魂かけた「法集名  
数経」を完成させた後，ミュラーの命で帰国，自らは大蔵経の英文目録に専念し，

岩倉具視没・1883＝34歳：\*恩師に手紙し続けた笠原が死去した年，インド国務省の委嘱という形で「大明三蔵聖教目録」が出版される  
や，一躍世界の東洋学界の寵児となり，続いて「スカーヴァティエーヴェーハ（無量寿経と阿弥陀経）」も公刊。  
並行して，笠原の仕事の残りを完結させ，他の多くの漢訳仏典を英訳するなどして，なお研究を続けよう  
とするが，東本願寺の内紛で後援者石川舜台らが失脚，送金が途絶え，さらに実父の死去，

秩父事件・・・1884＝35歳：養父続いて実母からの手紙の訴えに帰国を決意，「大明三蔵聖教目録」によりマスター＝オブ＝アーツの学位  
を得て，アメリカ経由で帰国し，東京大谷教校の教授となる。

内閣発足・・・1885＝36歳：オックスフォードから笠原の「法集名数経」刊行。東京帝国大学講師にも迎えられ，初めて梵語を講じる。  
その後も笠原への追悼の心を失うことなく，

国民之友始・1887＝38歳：釈雲照律師から欧米出立予定のパトロン青木貞三を訪問するように指示され，対談するうち，インド訪問希  
望に青木が資金援助すると申し出てくれ，急遽同じ便で出発。インド巡遊後，

初の対等条約1888＝39歳：中国の仏蹟も巡遊して帰国。東本願寺名古屋別院普通学校長。加藤弘之らとともに，文部省から\*日本初の  
文学博士号を授与される。

帝国憲法発布1889＝40歳：高楠順次郎が渡欧するに当たり，恩師ミュラー宛の書を持たせ，指導してくれるよう懇願。

帝国議会始・1890＝41歳：華族女学校嘱託，

日清戦争始・1894＝45歳：本山の学師となり，真宗第一中学寮長，

白馬会・・・1896＝47歳：この年，高楠が，笠原の遺志を継いで「南海寄帰伝」の英訳注釈を完成させ，刊行して霊を慰める。

八幡製鉄始・1897＝48歳：\*恩師ミュラーが死去。その蔵書が遺品として，南条・高楠のもとに送られてくる。

田中正造直訴1901＝52歳：真宗大学教授から，

日比谷公園・1903＝54歳：真宗大学学監を歴任，

日露戦争終・1905＝56歳：「梵語講義」，

満鉄発足・・・1906＝57歳：\*帝国学士院会員にも推されるなどしながら，梵語研究を続け，

アライ創刊・1908＝59歳：\*オランダのケルンと協同事業による「梵文法華経」第1巻を刊行始め，

大逆事件判決1911＝62歳：学監を退任。権僧正。\*全5巻を完成。

明治天皇没・1912＝63歳：

第一次大戦始1914＝65歳：\*真宗大谷大学学長に就任。

この間，健康を害して，度々辞意をもらすも許されず，

ペルシ条約・1919＝70歳：\*古希記念に，大谷大学が「梵文入楞伽経」の出版事業を決定，

原敬首相暗殺1921＝72歳：僧正。

水平社結成・1922＝73歳：党王山日還寺住職。

関東大震災・1923＝74歳：\*現如の死去後，完成し刊行したが，大震災で麹町の邸宅書庫が（ミュラーの蔵書も）灰燼に帰し，ようや  
く学長を退任して，青山穩田に幽棲，

来訪してくる好学の青年に自らの生涯を語って，その筆録が遺され，

金融恐慌・・・1927＝78歳：\*没した。自伝「懐旧録」を遺す。